

星野 佳路

(株)星野リゾート代表取締役社長

エコツーリズムの必要性の認識と、普及への政策的試みは、我が国の観光産業にとって歴史的に重要なステップになると確信するとともに、その推進に当たられた方々に敬意を表します。

今回の課題で最も重要であると認識する「エコツーリズム憲章」の内容については、委員会での議論を経て原案に至った経緯やその意図は十分に理解いたしました。しかし、憲章の目的を考慮すると不十分な点があると考えております。それは、「エコツーリズムと今までのツーリズムとの差異が明確でなく憲章として伝達力が弱い」という点であります。大変僭越ではございますが、ここに代案を記させていただきたいと思っております。マスツーリズムを否定することなく、一般の旅行者へのベネフィット(便益)を中心にしながら、委員会で議論になった情緒的な要素も盛り込み、エコツーリズムの定義を表現してみました。本提案は、日本でエコツーリズムを実践してきた者の責任と考えておりますので是非ご一読下さい。

委員として参加させていただき本当にありがとうございました。

「エコツーリズム憲章」(代案)

日本には独自の文化と美しい自然がある。長い歴史の中で、ご先祖様が今に伝えた大切な遺産だ。自慢の遺産をもっとよく知り、沢山楽しみ、しっかり守り、そして次の世代に引き継ぐ・・・そういう観光をエコツーリズムと呼ぶ。

自慢の遺産は面白い。ゆっくりじっくり観察することから始めよう。発見することで楽しみ、体感することで感動しよう。きっと人に伝えたくなくなるはずだ。

自慢の遺産は壊れやすい。多くの人々が旅する時代に、放っておけば失われていく。壊さないように旅をしよう。守る活動に賛同しよう。育む試みに参加しよう。大切なこだわりを持てるはずだ。

エコツーリズムは、人々が旅することで、日本各地の文化や自然を守り再生していく仕組みだ。自慢の遺産を次の世代に受け渡そう。自分を見直すことができるはずだ。